

# N P O 法人・越谷市郷土研究会 第486回史跡めぐり

平成30年1月7日(日)

草だんごに帝釈天、寅さんの故郷を訪ねる

## 『柴又七福神めぐり』



集合時間と集合場所 8:20 越谷駅東口

コース 越谷駅(8:42 区間急行浅草行)ー牛田・関屋(乗換)ー京成高砂(9:17)ー観蔵寺かんざうじ  
(1寿老人)ー佐倉街道さくらー医王寺いおうじ(2恵比寿)ー宝生院ほうしょういん(3大黒天)ー遊歩道(柴  
又用水)ー万福寺まんぶくじ(4福祿寿)ー古代の古道「国分道」こくぶんみちー柴又八幡神社(寅さん  
埴輪りょうかんじ古墳)ー良観寺りょうかんじ(5布袋尊)ー古道「柴又道」しんしょういんー真勝院(6弁財天)ー矢切の  
渡たいしゃくてんー柴又帝釈天だいきょうじの題経寺(7毘沙門天)解散(12:30) 参道商店街→柴又駅

徒歩距離: 5.5キロメートル(京成高砂駅~柴又駅)

帰途の例: 柴又駅(寅さん・さくら銅像)→京成金町・JR金町→北千住→越谷駅

## 柴又の歴史

### 1. 柴又の重要文化的景観

平成29年11月17日、文化審議会は「男はつらいよ」の舞台として知られる葛飾柴又を重要文化的景観に選定するように答申しました。

### 2. 「柴又地域文化的景観の成り立ち」について

(葛飾区教育委員会作成の解説版より)

葛飾は、縄文海進後、上流部からの土砂の堆積により陸化が促され、河川や海岸線に沿って微高地が形成されます。柴又地域も現在の帝釈天題経寺から柴又八幡神社、さらに(西の)古録天神社にかけて東西方向に微高地が島状に発達し、古墳時代後期には集落が営まれ古墳も築かれるようになります。

また、柴又地域は、太日川(ふとひがわ、現在の江戸川)の西岸に位置し、(土砂の堆積の顕著な中、)《低地の中にわずかな高まり、微高地が嶋のように浮かんで点在した。また》川が分流したり合流したりする「俣」をなしていたため「嶋俣」と呼ばれるようになって、中世後半には「柴俣」と転訛したと考えられています。※( )や《 》内は加藤が加筆  
※上記《 》内は葛飾区教育委員会作成パンフ「葛飾・柴又の歴史と文化を後世へ」から加藤幸一が引用加筆。



第一作のポスター

柴又地域の景観の骨格は、この「嶋俣」という古名によく表れています。太日川の河床の浅さゆえに渡河地点となり、水陸交通が交差する要衝の地として機能してきました。そして、嶋状の微高地は古くからの居住地となり、低地に広がる水田を耕す農村として生き続けてきました。(中略) この「嶋」の東側に、寛永6年(1629)に帝釈天<sup>だいしやくてん</sup>題経寺<sup>だいけいじ</sup>が開基されました。安永8年(1779)の帝釈天「板本尊」の発見以降、参詣地として隆盛し、明治以降は常磐線金町駅の開業や人車鉄道<sup>じんしや</sup>の開通によりさらに発展し、東京近郊の行楽地として、今日見られる参道景観が形成されていきます。

その後も大正15年(1926、昭和元年)の金町浄水場の開設や、昭和初期の低地部分の耕地整理、戦後における都市化の進行など近代化の波の中で変貌を遂げつつもその個性を保ち続けてきた柴又地域の景観は、映画「男はつらいよ」の舞台となったように人々の心を打ち続けてきました。この魅力的な文化的景観はいまや日本の原風景の一つといえます。※近くには江戸川が流れる。古代においては太日川と呼ばれ下総国葛飾郡の中央の郡境(右岸は葛西郡、左岸は葛東郡)を南流して江戸湾に注いでいました。ここは「からめきの瀬」とも呼ばれ、雨の少ない時期に浅瀬となって歩いて渡れたと考えられています。※人車鉄道は、常磐線開通後の明治33年(1900)に金町と柴又(柴又八幡社の裏)の間にできました。

トロッコのような屋根付きの定員6名の客車を押し夫が手押して、広大な田んぼの中を南北にまっすぐ走らせました。その後現在の京成電鉄に買収され、今日に至っています。

### 3. 古墳時代の柴又(谷口栄氏の平成20年2月講演「知られざる葛飾柴又の魅力」参照)

柴又八幡神社古墳は、古墳時代後期(6世紀後半)の全長30メートルの規模を有する前方後円墳です。東京の下町唯一見られる石室という遺体を安置する部屋があり、それはわざわざ房総の鋸山の海岸部から石を持ってきていたことが判明しました。さきたま古墳群の將軍山古墳も同様です。

古墳の周りの溝から帽子をかぶった男性埴輪が発掘され、この埴輪を俗に帽子をかぶっている現代のフーテンの寅さんとひっかけて「寅さん埴輪」と呼ばれ、親しまれています。

### 4. 奈良時代の柴又

奈良の東大寺の正倉院に養老5年(721)に書かれた戸籍が保管されています。正倉院<sup>もんじよ</sup>文書です。その中に「下総国葛飾郡<sup>おおしまごう</sup>大嶋郷戸籍」というものがあります。その中には甲和(こうわ)、嶋俣(しままた)、仲村という地名が出て来ます。甲和は今の小岩、嶋俣は今の柴又とその北の水元までです。仲村は甲和と嶋俣の間という意味と考えられ現在の立石や奥戸ではないかと推測されています。嶋俣は四十二戸、人口三百七十人、村長は孔王部小刀良(あなおべ・ことら)です。偶然にも「フーテンの寅」の「とら」と同じ読みの人物です。谷口栄氏によると男女にも使われた「とら」の名は男だけでも7人いるそうです。

## 5. 中世の柴又（谷口栄氏の平成20年2月講演「知られざる葛飾柴又の魅力」参考）

鎌倉時代の入る前のこと、石橋山の戦いで負けて真鶴のほうから船で房総半島に逃れました。そこで再起をかけたわけです。房総半島の安房から北上して太日川（現在の江戸川）の八切（やぎり、現在の矢切の渡しに相当）を渡河して鎌倉を目指すのです。その時の道が柴又八幡神社脇を通る国分道と考えられています。

戦国時代にはこのあたりで江戸川をはさんだ国府台合戦が行われた古戦場跡でもあります。これは小田原の後北条氏と安房の里見氏との戦いで、後北条氏が勝利します。

江戸時代になると太日川は江戸初期に関宿から金杉にかけて人工河川ができて新利根川となり、さらに江戸川と呼ばれるようになりました。

## 6. 明治・大正の柴又（読売新聞S50・1・20「柴又存御存じ帝釈天参道」及び当時の加藤現地調査）

柴又は水田や畑が広がる農村地帯で農家などわずか百軒ぐらいしか家がなく、大正年間に人車鉄道に代って京成電鉄の柴又駅ができるまでは不便なところでした。農家の人たちは、夜中から夜通し野菜（柴又の<sup>こまつな</sup>小松菜を「葛西菜」と呼ばれた）を大八車に積んで神田の<sup>いちば</sup>市場に出かけていました。近くには帝釈天と参道の門前町があり、参詣者は遠くからも徒歩でやってきました。また水害も多く、農家には「<sup>みづか</sup>水塚」（母屋よりも一段と高く盛り土した所にみられる建物で、水害時にここに避難する）も見られました。

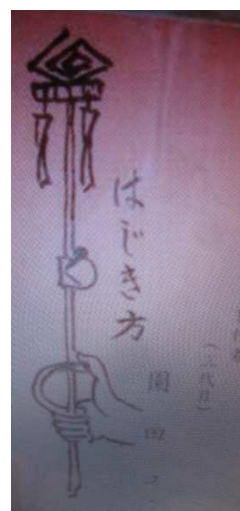
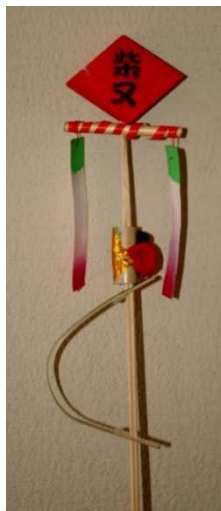
このあたりでは上質の井戸水が出ていました。しかも掘ればコンコンとあふれ出たといえます。江戸川の水質も良好で明治の頃はわざわざお茶をわかすためにも使用したといえます。江戸川ではよしきりが遠く近く、所かまわず鳴き続けていました。春になると江戸川の河川敷で竹かごを背負った主婦たちがヨモギを摘みました。帝釈天の参道に並ぶ店に草団子の為に納めるからです。

参道の土産物として、田舎特有の「草団子」の他に災難をはじき去る（猿）という「はじき猿（ざる）」も知られています。赤い木綿の縫いぐるみの猿が竹のバネで飛び上がる単純な竹製のオモチャで、猿は帝釈天の使いで庚申にちなんだ縁起物です。

### はじき猿（ざる）

今から800年前の昔、日蓮様が町をおわれ山に籠った時、山火事にあいました。その時助けてくれたのがお猿さんです。お猿さんは帝釈様のお使いだったのです（御前立）。それから日蓮様は帝釈様を信仰する様になりました。

災難をはじき猿（去る）運をはね上げると言い、江戸末期から縁起の良いと言い伝えられてきました。現在では東京随一柴又民芸品になっております。 製作者 三代目 園田コト



インターネット「はじき猿の画像」より取得

## 7. 昭和の柴又

「男はつらいよ」の帝釈天参道の舞台として、昭和44年、第1作目の映画に使用され第4作目まで「寅さん」の実家として使われた「門前とらや」があります。さらにその後、寅さんと長い付き合いとなる高木屋があります。撮影の度に休憩や衣装替えに部屋を貸したのがきっかけで、寅次郎のおいちゃん、おばちゃんが経営する「だんご屋」のモデルとされています。店内には写真が展示されています。



インターネット「柴又門前とらや」より取得



インターネット「高木屋老舗と寅さん」より

帝釈天は土地が高く昔から水が来ない所（水害に襲われない所）と伝わっていたようで、昭和22年に起きたカスリーン台風では亀有や金町などが水没してもここは大丈夫でした。

## 柴又七福神めぐり

七福神詣は寺院と神社が入り混じっているのが普通であるが、柴又はすべてが寺院です。

### 1. 観蔵寺（かんぞうじ）

寿老人 金亀山神宮院観蔵寺

当山は、文明元年（1469年）の開創であるが、永禄七年国府台合戦により焼失し、承応二年（1653）、法印隆教が再興する。寿老人は、七福神の第一におかれる長命の神で、寿福を司る神様である。日本では室町時代より信仰が盛んである。

葛飾区・葛飾区観光協会

補説：本堂は大正3年（1915）頃の再建で、昭和38年修築された。本堂内の仏像は震災と戦災を逃れて今日に至っています。なお、隆教は新編武蔵風土記稿では隆敬（りゅうきょう）となっている。国府台は江戸時代に「鴻之台」とも書かれた。

◎佐倉街道・・・佐倉城に通じる街道で、特に水戸街道新宿の追分から佐倉を結ぶ佐倉街道を「水戸佐倉道」と呼んでいる。

### 2. 医王寺（いおうじ）

恵比寿天 医王寺（開創応永十四年（1407）室町時代、開祖観賢大僧正）

中興祖源珍僧都（げんしんそうず）という御方が宗祖弘法大師の足跡を巡行中、村人よ

り一体の恵比寿天を戴（いただ）かれ、山中に安置し香華供物（こうげくもつ）を供え二十一日間の御修行をすると、川底より砂金を掬（すく）い上げた。後に恵比寿天を礼拝すれば商人は「金銭、意の如く集まる」と唱え、多くの世人に広めた。当山代々住職は、その偉業を尊び伝承し今日に至らしめたものである。

葛飾区・葛飾区観光協会

補説：平成4年（1992）に完成した「仁王山門鐘楼」（下に仁王を安置した鐘楼門）には下の階には仁王像、上の階には周囲に四天王と裏側中央に鐘楼があります。鐘楼は毎年大晦日に撞いています。鐘楼を備えた楼門は格式のある山門と言えます。

四天王とは、持国天（東）・増長天（南、右手で矛を立てる）・広目天（西、右手で筆を持つ）・多聞天（北、左手で宝塔を掲げる）、「地蔵買（こ）うた」として覚えるといひです。多聞天は「毘沙門天」とも呼ばれています。

### 3. 宝生院（ほうしょういん）

大黒天 宝生院

米俵に乗っている大黒天は、インドの神様と大国主命の習合。当寺に安置する大黒天は、将軍家にも信仰が深く、大きな袋と打ち出の小槌で、多くの人々を救済する「出世財福」の御利益で有名である。

※頭光のある火焰、光背を負った不動明王像が透彫（すかしぼり）してある「寺宝金銅幡 残欠（じほうこんどうばんざんけつ）」は、葛飾区文化財に指定されている。

葛飾区・葛飾区観光協会

補説：宝生院の本尊の大黒天は、全身が真っ黒、口の中だけ真っ赤というお姿で、「出世大黒天」とも呼ばれて、将軍家を初め、古くから崇敬を集めています。関東大震災で罹災したため、上野の池之端茅町より昭和2年に当地に移転してきました。

◎遊歩道（柴又用水跡）・・・昔の広大な田園地帯の名残です。橋跡の表示も見られます。

### 4. 万福寺（まんぷくじ）

福祿寿 万福寺

短身長頭で白い鬚の福祿寿は、中国の神様で、南極老人星の化身。福は幸福、祿は高祿、寿は長寿の三徳を兼ねた神様。

当山安置の福祿寿は、年代不明であるが、宍戸家に伝えられた家宝仏であったものを奉納され、以来当山に祀られている。

葛飾区・葛飾区観光協会

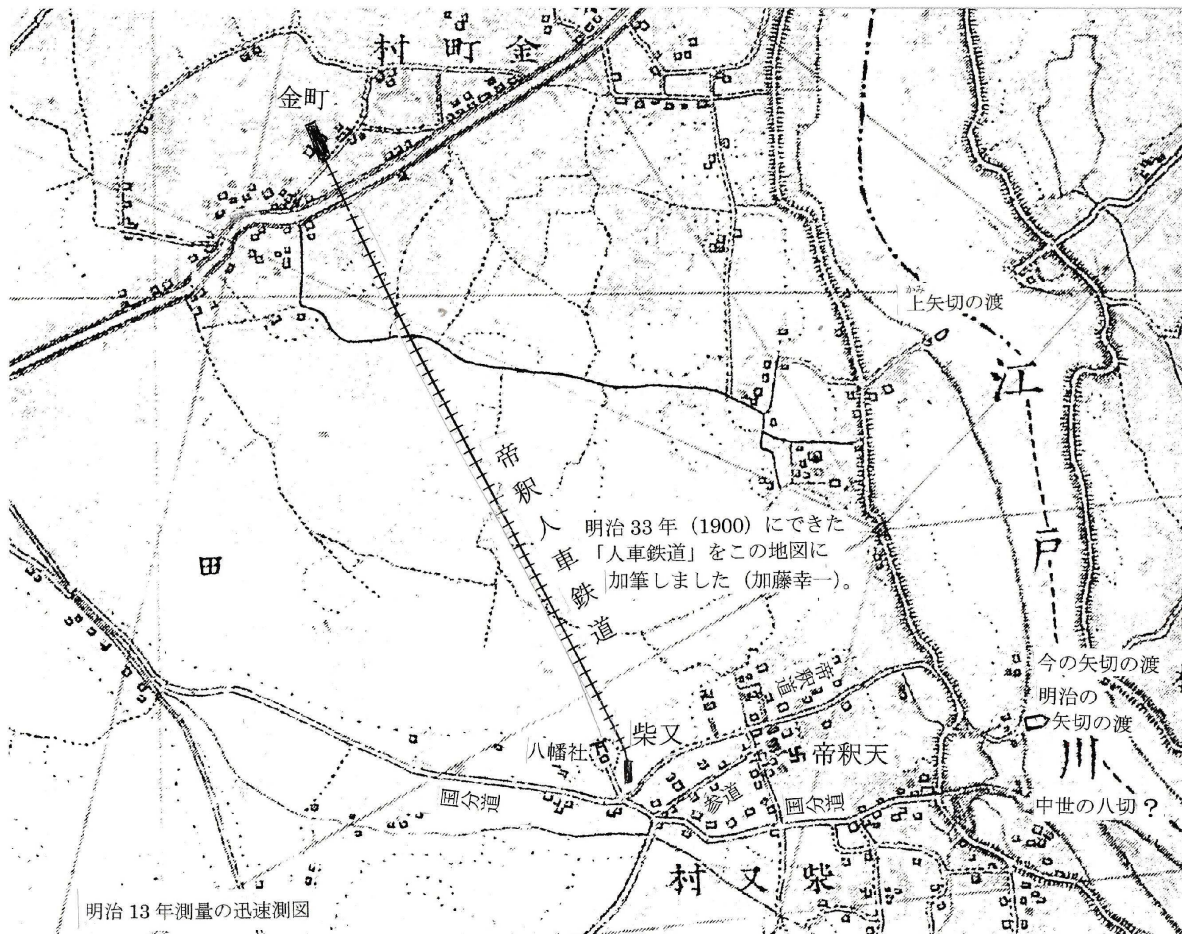
補説：この地から人骨数体が発掘されたため、地元の人びとの要望に基づき昭和3年8月に創立されました。昭和23年（1948）に正式に「萬福寺」という名称となった曹洞宗の歴史の浅いお寺です。

◎柴又八幡神社・・柴又八幡神社の正面の道は現在の矢切の渡しに通じる「帝釈道」で、さらに下図のように「<sup>こくぶんみち</sup>国分道」との追分の地点でした。ここは円墳とされていました。前方後円墳とわかり、石室や「寅さん埴輪」が見つかっています。



柴又八幡神社は、古くから石組みなどが露呈して古墳ではないかと言われていました。昭和40年(1965)の社殿改築の際に調査が行われ、埴輪片、馬具、石室の石材が確認されました。その後本格的な調査が行われ、八幡神社の社殿そのものが古墳の上に建てられていることが明らかになりました。現在はすべて埋め戻されて神社裏手に記念碑がつけられています。(インターネット「寅さん埴輪」)

◎古道「国分道」・・・下図(明治13年測量の迅速測図「東京府武蔵国南葛飾郡新宿町近傍村落」)の国分道は、古代からあった下総国の国府に通じる古道です。源頼朝も中世の八切(現代の矢切の渡しの南方か)からこの古道を通過して鎌倉に向ったと考えられています。地元では「こうじ道」と呼ばれました。



◎人車鉄道の柴又側の駅・・・京成電鉄が通る前は、上図のように広大な田んぼの中を金町（現在の京成金町駅）と柴又を広大な田んぼの中を南北に結ぶ人車鉄道があり、その柴又側の駅が柴又八幡社の東側にありました。



## 5. 良観寺（りょうかんじ） 宝袋尊 良観寺

駅の看板には「柴又」、「柴又寅さん記念館」より

当山の宝袋尊（布袋尊）は、江戸時代初期に商人が都からの帰りに、山中で日が暮れ、民家の宿を借り一夜を明かしたが、民家と思ったのは大木のうろの中で、驚いてうろの中を見渡すと布袋尊がおられた。尊像を店に持ち帰りお祀りしたところ、商いは大いに繁盛した。この御利益を大勢の人々のお役に立てたいと発願し、宝袋尊と称して当良観寺に奉納せられるに至った。

葛飾区・葛飾区観光協会

補説：当寺はもともと現地よりやや東方にありました。当寺の宝袋尊は昭和20年（1945）の空襲で焼失してしまい、現在は新たな尊像が祀られています。

## 6. 真勝院（しんしょういん） 弁財天 真勝院

当寺の弁財天は、金光明（こんこうみょう）経に表されている八臂（はっぴ）像の仏像で七福神中唯一の女神です。インドの経典に出てくる、河川を神格化された水の神様で、五穀豊穰の神様。さらに、河の流れを言葉に置き換えると詩・学問・芸能の神様でもある。

当山の弁財天の由来・年代等は不明であるが、弁天供養に使われる六器（密教の仏具）が保存されていることから、古くから近郷近在の人々より信仰されていたものと思われる。

葛飾区・葛飾区観光協会

補説：真勝院の弁財天は、頭に人頭蛇身の宇賀神（うがじん）がみられます。

真勝院は、江戸時代に近く of 古社である柴又八幡宮を管理していた別当寺でした。八幡宮（柴又八幡神社）は古代の古墳の上に後世になってから建てられた神社です。境内には、江戸時代前期の作と伝えられる五智如来（薬師如来、宝生〈ほうしょう〉如来、大日〈だいにち〉如来、阿弥陀如来、不空成就〈ふくうじょうじゅ〉如来）石像が祀られています。

◎矢切の渡し・・・江戸川をはさんで葛飾の柴又と松戸の矢切をつなげる渡し場。現在でも都内に残る唯一の手漕ぎの渡し舟が観光者を相手に運営されています。かつてはこのあたりで源頼朝が渡ったと推定されている所でもあり、現代では伊藤左千夫の「野菊の

墓」に出てくる矢切の渡しの舞台となった所でもあります。ヒット曲・細川たかしの「矢切の渡し」でも知られました。 (向かって右の写真はインターネットより取得)



夏季は毎日 10:00~16:00 運航、冬季は土日祝日、片道 200 円

◎江戸川右岸の桜の名所・明治時代、金町から小岩にかけての江戸川左岸の堤上に桜が植えられ、上野、飛鳥山と並ぶ桜の名所として昭和 30 年代半ば迄花見客で賑わいました。

## 7. 題経寺 (だいきょうじ)、俗称「柴又帝釈天」

毘沙門天 題経寺

甲冑を着けた毘沙門天は、インドの神様で右手に宝棒(鉾)を持ち、左手に宝塔を捧げ、足下に悪業煩惱の天邪鬼(あまのじゃく)をふみつけている。仏教の教えを守るとともに、招福・財福を授けてくれる神様である。また、別称「多聞天」といい、四天王のひとりとして、北方守護神として祀られている。 葛飾区・葛飾区観光協会

補説：柴又帝釈天は、正式には「経栄山題経寺」と称する日蓮宗のお寺です。寛永年間

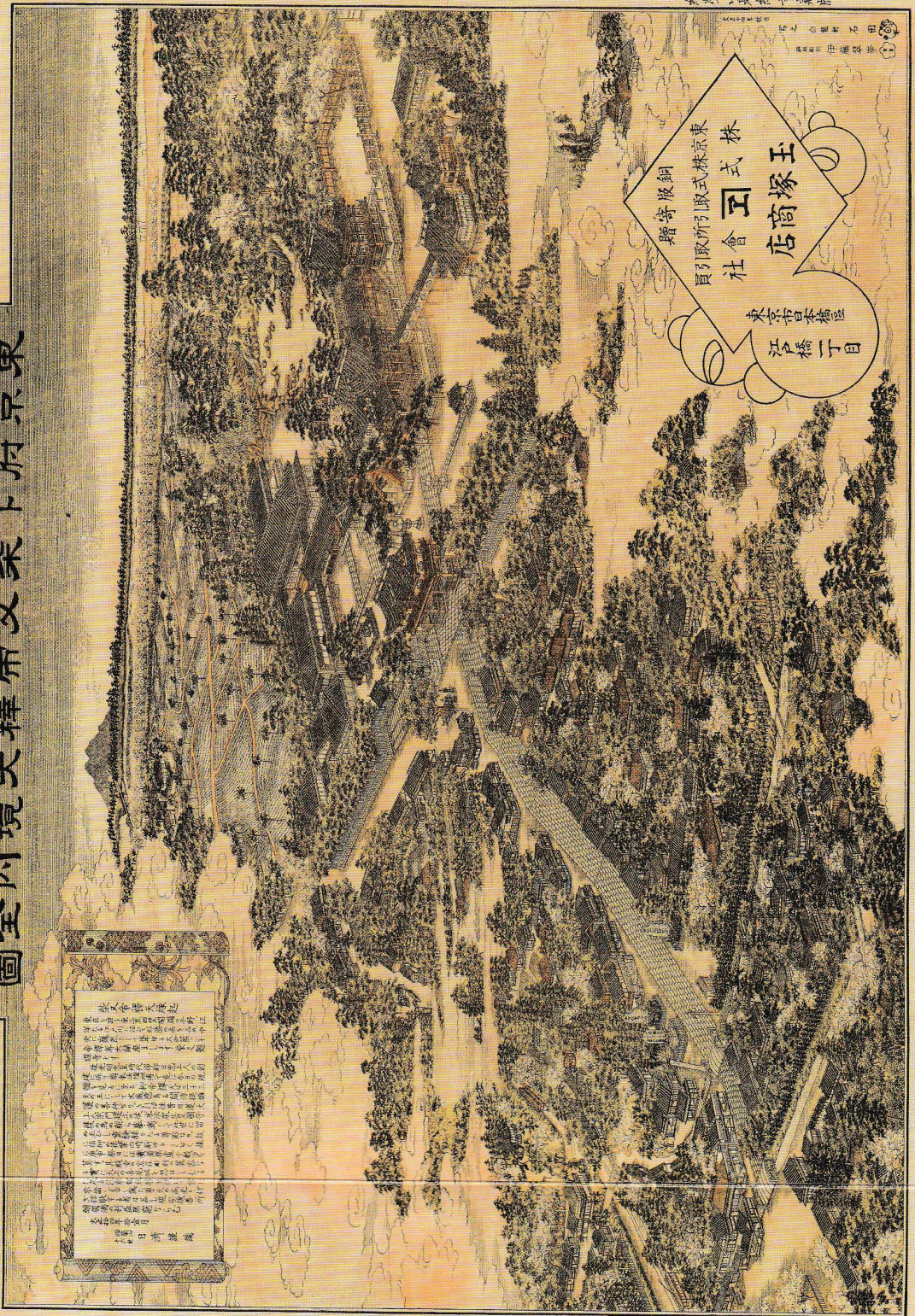
(1624~1644)の創建といわれます。日蓮上人が自ら刻んだという伝承のある帝釈天の板彫りの本尊(板本尊)がありましたが、長年所在不明になっていました。それが、日敬(につきょう)の時代に、本堂の修理を行ったところ、安永8年(1779)、屋根裏の棟木の上から発見されたと言います。この板本尊は片面に「南無妙法蓮華経」の題目と法華経薬王品(ほけきょうやくおうぼん)の要文、片面には右手に剣を持った帝釈天像を表したもので、これが発見されたのが庚申の日であったことから、60日に一度の庚申の日が縁日となりました。「柴又の帝釈天」として親しまれ江戸や近郷からの多くの参詣者が柴又村に柴又もうでに訪れ、今日に及んでいます。

帝釈天は一説に人々を救うために青面金剛を下界に遣わしたとされています。この帝釈天と当時大流行であった庚申信仰と結びついたので。帝釈天のお使いがお猿としています。日蓮宗系寺院で帝釈天の庚申信仰を取り入れて盛んになりました。

帝釈天は建物に刻まれた彫刻があちこちで見られ、見ごたえがあります。なお帝釈堂にある本尊帝釈天の横(向かって左端)に毘沙門天が祀られ、柴又七福神の一つに含まれています。



# 東京府下天釋帝又柴下府京東



大正 14 年 (1925) 当時の帝釈天。遠方には江戸川右岸沿いの桜並木や筑波山が見られます。

## 「葛飾柴又寅さん記念館」の案内

葛飾区柴又6-22-19 ☎03-3657-3455

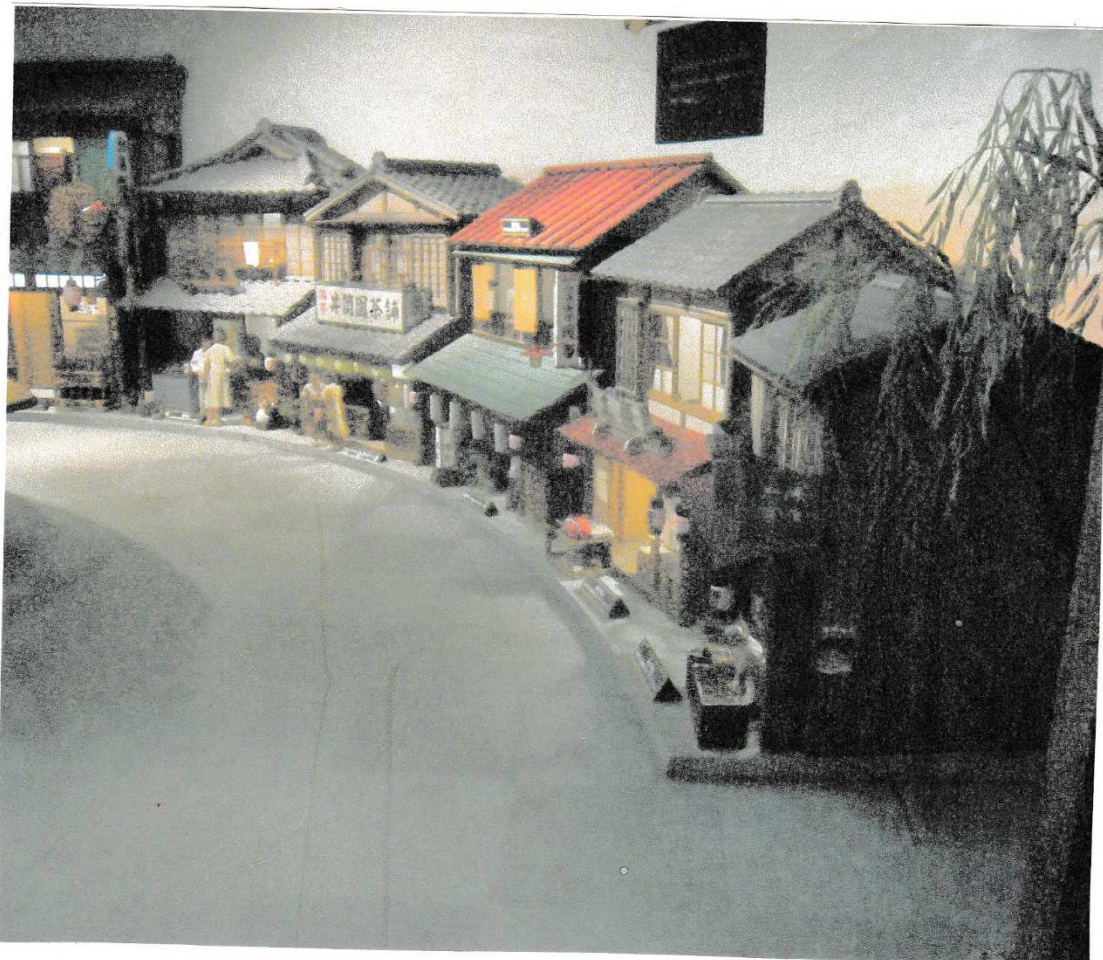
- ◇葛飾柴又寅さん記念館
- ◇山田洋次ミュージアム
- \*開館時間 午前9:00～午後5:00(入館は午後4:30まで)
- \*入館料 大人500円 小・中学生300円  
(65歳以上400円 団体割引(20人以上)有)  
お得な山本亭とのセット券もあります。
- \*休館日 第3火曜日と12月第3水～木曜日 ※年末年始は営業いたします。



読売新聞 S50・1・20

「柴又存御存じ帝釈天参道」より

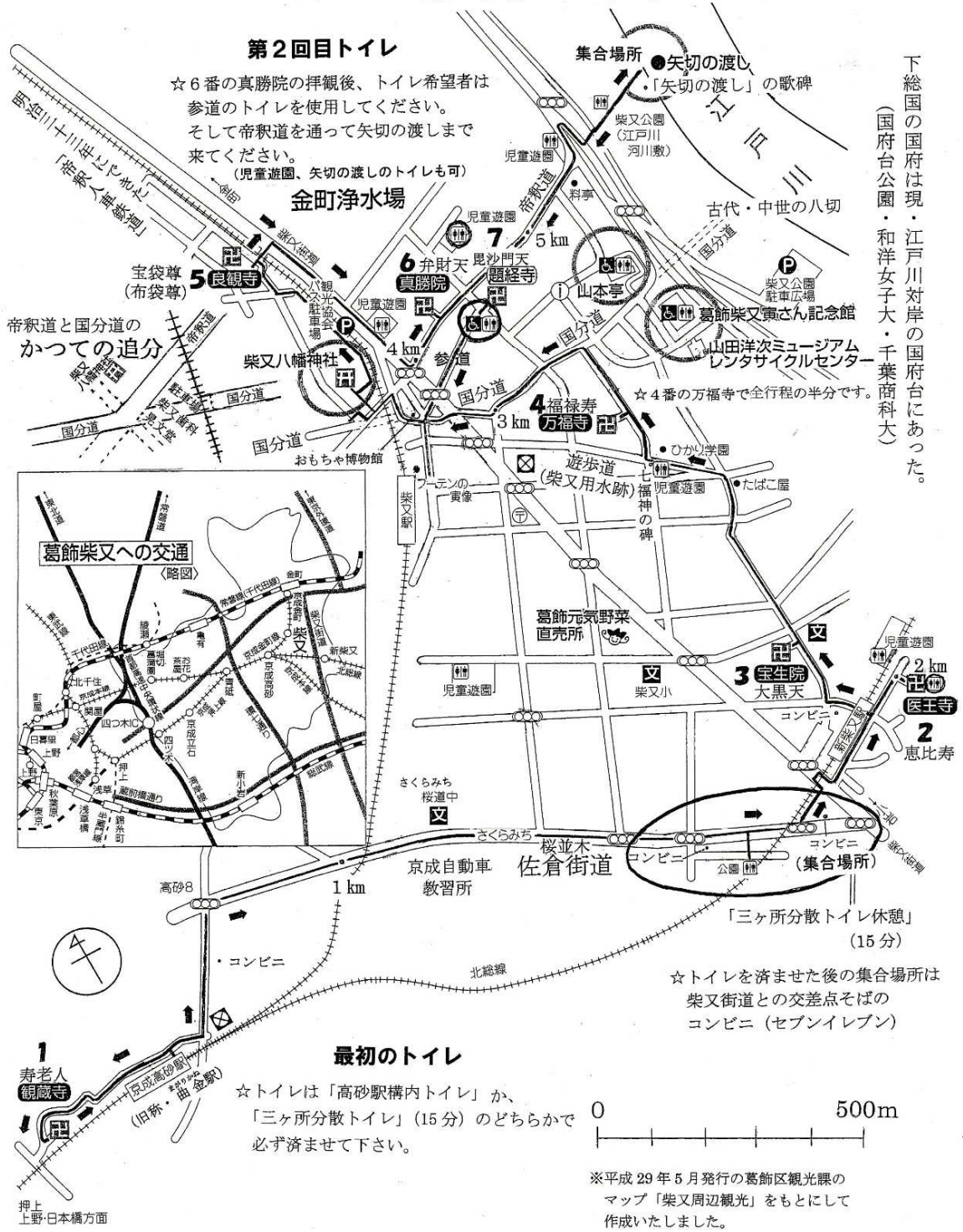
抜粋したカット



# 柴又七福神マップ

## 第2回目トイレ

☆6番の真勝院の拝観後、トイレ希望者は参道のトイレを使用してください。そして帝釈道を通って矢切の渡しまで来てください。  
(児童遊園、矢切の渡しのトイレも可)



下総国の国府は現・江戸川対岸の国府台にあった。  
(国府台公園・和洋女子大・千葉商科大)

☆4番の万福寺で全行程の半分です。

「三ヶ所分散トイレ休憩」  
(15分)

☆トイレを済ませた後の集合場所は柴又街道との交差点そばのコンビニ(セブンイレブン)

## 最初のトイレ

☆トイレは「高砂駅構内トイレ」か、「三ヶ所分散トイレ」(15分)のどちらかで必ず済ませて下さい。



※平成29年5月発行の葛飾区観光課のマップ「柴又周辺観光」をもとにして作成いたしました。